



東大寺 212 世別當 筒井寛秀 筆

No42

2018. 3. 15

【発行】

奈良県肢体不自由児者父母の会連合会

<http://www.narakenshiren.gr.jp>

【発行責任者】 松本 倫子

【メールアドレス】

[honbu@narakenshiren.gr.jp](mailto:honbu@narakenshiren.gr.jp)

結成五十周年記念式典 ごあいさつ

会長 松本 倫子

一月二十七日の結成五十周年記念式典での会長挨拶です。

みなさま良いお年をお迎えのことと存じます。戌年の今年は何ごともワンダフルな一年となります。幸先の良いことに、本日は、春を告げる若草山の山焼きの日と重なりました。私たち奈良県肢連は、結成五十周年を迎えることになりました。多くの方の心温かい、大きなご支援でここまで来ることができました。会員一同を代表してご支援いただきました皆様にご心から厚くお礼申し上げます。

本日の記念式典には、年始の忙しいところ、たくさんの皆様がお越しくださいまして誠にありがとうございます。心からお礼申し上げます。ご来賓として荒井県知事、仲川奈良市長、国会議員はじめ多くの方々がお越しくださいました。国会議員の先生方に、私どもがご出席のお願いをするのは今

回初めてでございます。五十年の節目、県肢連はどんなことをし、何を要望している団体なのかを知っていたいただきたいと思います。

同じ思いで、地域の父母の会からも、市町村にご案内をいたしました。日ごろお世話になっている、田原本町長、三宅町長はじめ市や町の福祉関係の方々も多数お越しくださいました。障害児者が社会で生きていくには、社会と行政・政治のご理解を得て障害福祉施策が前進していくことが何よりも大切ですので、私どもの趣旨をご理解いただきたご来賓の皆様にお越しいただきましたことは、大変うれしく存じます。

会の五十年の歩みを述べさせていただきます。

奈良県の肢体不自由児福祉の流れは昭和三十年に設立された東大寺整肢園に端を発し、体の不自由な子どもを家に閉じ込めてないで外に連れ出して、親たちも集まり思いを話し合おうと、父母の会の結成が、吉野郡、桜井市、奈良市で始まりました。その後、地域がまとまって、奈良県肢体不自由



児父母の会連合会が昭和四十三年発足して、五十年が経ちました。昭和四十年に奈良県立明日香養護学校ができていますので、四年後に県肢連ができたことになりました。昭和五十六年親の願いが実って奈良県立奈良養護学校が竣工しました。

この二つの養護学校の卒業生が会員のほとんどを占めています。会員の子どもたちはすべて肢体不自由があり、一般就労している人から、医療的ケアの要る人まで、障害の幅は広いです。車椅子を利用する人が大半で、重度の障害者が多い団体です。ほとんどの子どもたちが、配慮や支援を受けて元気に暮らしています。

初代会長小野宣代様、第二代会長故成亥庄司様、第三代会長故梅本弘様、第四代会長野田淳子様の後を私、松本倫子が平成十八年から引き継ぎ十二年余りたちました。代々の会長と本部役員、理事さん達は、県肢連の礎をさずいてくださり、障害のある子ども達のために、一生懸命立ち向かうという姿勢を貫いてこられました。

引き継いだ私たちも、子どものために、一生懸命に、和をもってやさしさを忘れずに、力を合わせて前向きに事に当たり、困っていいことは気軽に話せ、解決のために対策を考えられる会であることを大切にしてまいりました。

活動資金を作るために大きなチャリティーバザーを昭和五十四年から十一年間続けましたが、代わりになる県肢連事業として、肢体不自由児協会理事長の東大寺様のご賛同を得ることができ、平成三年第一回チャリティー墨書展を近鉄百貨店橿原店で開催いたしました。

爾来、今年十四回目を迎え、二年に一回の開催ですので二十八年間、ご揮毫いただく東大寺様はじめ南都諸大寺のお寺様のチャリティーのお心に支えられて、続けております。東京の奈良まほろば館の書画展も今年で五年になります。

県肢連にしかできない障害児者の大きな啓発事業となり、たくさんの方々に支えていただいていることに心から感謝いたします。

一方、社会で働くことのできない子供たちのために、二つの「福祉の店わかくさ」を作りました。ならファミリーに昭和六十年に設立された福祉の店ならファミリー店と翌昭和六十一年開所した近鉄百貨店橿原店内の、福祉の店橿原店です。

今は、奈良と大和高田の県パスポートセンターの隣で、県証紙と印紙を主に販売する仕事に励んでおり、買い求めに来て下さる市民の方々と接することに喜びと緊張を持つて臨んでおります。三十年を経て、経営主体が県肢連からNPO法人わかくさもえぎに、引き継がれましたが、設立にかけられた先輩の思いをしっかりと胸に刻み歩みたいと思います。

会員の子供たちは、すべて肢体に何らかの障害をかかえており、身体機能や健康を維持し、二次障害を防止するためリハビリは欠かせません。県肢連では二つの訓練会を支援しています。

心理リハビリテーションシヨンを実施する「仔鹿会」と静的弛緩誘導法を行う「陽だまり笑顔の会」です。

いずれも子の健康を願う親たちの気持ちから出発し、養護学校の先生たちが中心になってくださり活動を続けて、仔鹿会は五十年、陽だまり笑顔の会は十三年続いています。今では毎月の学習会に事業所の職員さんも参加してくださいます。

五十年の節目に記念誌「道」を作り、本日は皆様のお手元にお渡ししております。記録にとどめるだけでなく、先輩諸氏と共に積み上げてきた活動や事業を広く会員に知っていただき、次の世代に伝えていきたいという思いで編集しました。すべての項目に歩みと現状そして課題や今後の方向について記載することにしました。

原稿を依頼いたしました皆様は心温かいすばらしい原稿をお寄せくださいました。おかげさまで奈良県肢連の歩みを詳細に綴った記録誌になりました。一度に読み切れません。項目ごとにお目通しただければと思います。

記念誌をもとにして歩みを述べてみます。

まず一つ目には、「会員が立ち上げた事業所・施設」を載せることでした。学校卒業後の福祉の分野については、福祉制度も情報もなかった、ないないづくしの時代、子どもを介護しながら奔走して生

活介護事業所（当時作業所）や施設の開所に頑張つて来られたお母さんの足跡と思いが綴られています。十三の事業所にお願ひしました。

パイオニア世代と呼ばれる七十代以上と「制度拡充期世代」の六十代後半のおかあさんの頑張りがあった今があることを、五十代の「制度整備期世代」と四十代以下の「サービス消費者世代」に伝えなければ、父母の会の今後に結びつかないとの思いで編集しました。

地域の活動については、十四の地域父母の会と、会員がお世話になっている四十六の施設・事業所の現状と今後の課題や方向性をシート形式で記入いただき、調査結果として現状と課題を加えています。地域での子供たちの生活で一番多いのは親と同居の在宅で生活介護の障害福祉サービスを利用している人で、親子の高齢化の課題が見えてきます。

子どもたちは奈良県下四十六か所の施設・事業所でお世話になつていくことがわかりました。そこでは子どもたちの障害に応じた取り組みをしていただき、生活と命を守ってくださいます。皆さんに感謝いたします。親子は、事業所のみなさんと相互信頼関係

を築き、子供を託せる大切な場所ですから、より良いものになるよう努力してほしいと思います。

これから先の子どもの高齢化を考えると医療の問題は外せません。重症児者を診ていただいている三病院・施設の院長・園長に各病院の現状と今後についての思いを寄せていただきました。

年譜の拾い出しには漏れがないように福祉の流れ、また近畿大会、全国大会、近畿指導者研修会、県父母の会総会等の研修題目も入れ込み丁寧に仕上げました。そこから分かったことは、「障害からくる生きづらさを軽減して、より豊かな生活ができるように」という言葉でくくられるテーマがずっと続いていることです。

平成十五年の支援費制度施行以後、この十数年間はたびたび制度の改定が行われた時代でもありました。お母さんもそれに対応できるように研修会を数多く開き、市町村事業になる地域生活支援事業等の実態調査を実施しております。奈良県内の市町村格差も明らかになり、国や県への要望書作成に役立てました。資料編に実態調査報告、平成三十年度の要望書を掲載しています。

ちなみに、県肢連として平成二十二年から、要望書に車いすトイ

レに、成人のおむつ交換ができる折りたたみのベッドを設置してほしいと記載し続けております。私たちの困窮度を理解いただき、近年設置されるところが少しずつ増えてきました。

県肢連は以上の活動や事業を企画し執行する本部として、本部役員と事務局がその任務を果たしています。

県肢連本部役員と各地域父母の会の会長を理事とした理事会を中心に据え、四つの部会を置いています。研修部会はその時々の課題に沿った研修を、事業部会は子供たちの社会参加を主体とした親睦会や社会見学を、広報部会は広報誌「道」の発行とホームページの管理をしています。

本人部会は本人たちが自己決定して自立することを目標として様々な体験にチャレンジしています。「本人たちの思い」も合わせてお読みください。

理事会や部会に、月に一回から二回、地域父母の会の役員が集まりますので、互いの地域の情報交換、国や県からの情報発信をしていますし、地域のニーズを聞いて、国や県に届けています。これも県肢連の大きな役割です。

振り返ってみますと、障害のある子を授かって私の人生は悲しみ

も喜びも人の倍の人生だったと思います。子どもは私の生き方を教えてくれましたし、子どもがいて父母の会があったので明るく元気で生きることができ、何よりも人とのつながりをいっぱい作ってくれました。

現在、親にも子にも高齢化による課題が山積しています。（私の場合は、息子は今年四十九歳、母は七十五歳になり、高齢化のど真ん中にいます）介護できなくなった時や親亡き後を見据え、親の役割は、子どもの自立心を育て、お世話になつていいる事業所のみなさんと信頼関係をきずくこと、そして経済的なことも含め将来設計を元気なうちから考えておくことではないでしょうか。

今は、福祉サービスの何もない時代時代に比べれば、随分と暮らしやすくなってきましたが、残念ながらまだまだ十分に行き届いた制度には成り得ていません。

使いづらい移動支援、住まいの問題、所得保障、六十五歳の介護保険優先制度、福祉事業所・施設での医療、医療を伴うショートステイの確保等、福祉・医療サービスの向上と整備に向かい、父母の会としては、これまで同様に子どもたちの代弁者として、市町村や県・国に声を届けてまいりましょ

う。

平成二十六年一月障害者権利条約が批准されました。国では障害者基本法と障害者総合支援法、障害者差別解消法が整備されて施行され、奈良県では平成二十八年四月「奈良県障害のある人もない人もともに暮らしやすい社会づくり条例」が施行されました。重度の障害者も困っていることを、合理的配慮として、社会にお願いしやすくなってきました。

私たちの子供たちは歩けなかったり、言葉を使えなかったり、上手に食べられなかったり、呼吸がしにくかったりしますが、喜怒哀楽は感じ、自分なりに表現しています。人として主体的に生きていくよと訴えているように思います。

そんな重い障害のある人も「住み慣れた地域で安心して住める共生社会の実現」をめざして、いつか障害も個性と言える時代が来ることを願い、会員一同歩んでいきたいと思しますので、今後ともご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 研修部会の報告

「地域生活拠点事業について」

(九月一日・金)

講師 奈良県健康福祉部  
障害福祉課  
自立支援療育係長  
吉田 勝紀氏

本部役員 前田 妙子

障害者の生活を地域全体で支えるシステムを実現するための「地域生活支援拠点等の整備」を国が進めています。

「地域生活支援拠点等の整備」とは、障害者の重度化・高齢化や親亡き後を見据え、居住支援のための機能（相談、体験の機会・場、緊急時の対応、専門性、地域の体制づくり）を、地域の実情に応じた創意工夫により整備し、障害者の生活を地域全体で支えるサービス提供体制を構築するということです。

① 一つの施設などが、緊急時の受け入れ、相談、専門性、体

験の機会・場、地域の体制づくり、の五つの機能を担う「多機能拠点整備型」

② すでにある地域の様々な社会資源が連携する「面的整備型」

の二種類が考えられます。

国は、平成三十二年度末（第四期障害福祉計画期間中）までに、市町村または各圏域に少なくとも一つの整備を進めることとしていますが、現在のところ必ずしも進んでいない状況であり、今後、各市町村等において早急に整備に向けた検討を行う必要があります。そのためには、都道府県は、必要な支援を行うとともに、整備に向けた検討を早期に行うよう促す必要があるとされています。

奈良県では、平成二十七年度策定の奈良県障害者計画の中で「障害のある人の地域での暮らしの安心感を担保し、親元からの自立を希望する人への支援を進めるため、効果的な地域生活支援の方法について、地域の実情を踏まえて検討に取り組みます」と記しています。しかし、地域の実情を踏まえた検討が必要であることから、市町村単位や圏域単位での数値目標は設定していません。二十九年度から

は、圏域マネージャー（奈良圏域を省く、南和、中和、東和、西和の四圏域）の役割に、地域生活拠点等の体制整備支援の役割を加えて、県と市町村のパイプ役を担ってもらい整備を行う市町村の後方支援を行うようにしました。

また、整備が進むためには、地域自立支援協議会等を活用することも重要で、県は五つの自立支援協議会に研修会を実施、今後実施していく予定です。

その中で、生駒市の自立支援協議会が平成二十九年度から整備に向け動き出しているようです。

「地域生活支援拠点等の整備」を進めるに当たって、行政のリーダーシップが必要ですが、行政だけでは解決できる問題ではなく、関係機関（事業所、教育、医療など）及び関係者間（職種間）との連携が必要です。また何をもちって「地域生活支援拠点」といえるのか、今後、国からより具体的に示される予定であり、それを受けて奈良県の今後の指針を見せて頂きたいと思えます。

## 防災研修

「命をまもる みんなで助かる」

(九月二十七日・水)

講師 L L P  
ユニバーサルデザイン企画  
代表 梅 とが 紀久代氏 きくよ

本部役員 横谷 京子

梅さんは事故の後遺症により車いす生活をされていますが、とても前向きで行動的な方でした。「できなかつたら、できるようにしなさい。なければ作ればいい」というのが梅さんのお母様の教えだそうです。車いす利用者の視点から防災の調査、研究をされ、各地の防災訓練等で講演・啓発活動を行い、またユニバーサル商品の企画・開発もされています。梅さんが乗っておられる電動車いすにも色々な仕掛けがありました。車いすの座面が上下に動き、立っている人と目線が合う、ライトが点く、そして車いすがしゃべる。ボタン一つで「車いすが通ります」「すいませ〜ん通してください」と音声が知らせることが出来るのです。驚きのアイデアでした。

その他防災用品も紹介してい



いただきました。水で反応する懐中電灯や、車いすが使えない時の緊急救助用担架は搬送者も楽に使え、おんぶ用としても対応できるものでした。また、「お手伝いバンドナ」と「医療バンドナ」というのがあります。バンドナを三角に折ると片側には「お手伝いしてください」と書いてあり、反対にすると「お手伝いできません」と書いてあります。そこへ「聴覚障害です」とか「手話通訳ができます」と書き込めば援護者と要援護者が一目瞭然でわかります。医療バンドナも、医療支援者と片側には医療支援必要と書いてあります。大勢の人がいる避難所でこのバンドナをつけていれば要援護者であることがすぐにわかってもらえる良い方法だと思いました。

阪神淡路大震災も体験されましたが、避難所に車椅子の人がいない。体調不良の人が多い。総務省危機管理室に電話するも障害者に対する対処法が何もわからない状態でした。その時には何もなかったけれど、二〇〇四年の新潟福島豪雨災害で高齢者の犠牲者が多かったことから、二〇〇六年に「災害時要援護者支援ガイドライン」が発表されました。でもまだ課題はありました。二〇一三年に災害対策基本法に公共機関、住民等の

責務が入り、「要援護者」が「避難行動要支援者」となり名簿の作成が市町村に義務付けられました。

日本では障害者手帳を持っている人が障害者であるという認識でしたが、国際的には乳児、妊婦、高齢者、外国人など通常の生活に不便を感じている人を障害者という認識であり、日本でも要援護者と考えるようになりました。

障害者にとって災害時の素早い避難行動は困難です。避難情報の発表があった時、健常者にはまだ情報の段階ですが障害者はこの時点で避難を始めなければ間に合わない。避難経路は前もって家族で二、三か所見つけておくことも必要。

自助、共助、公助、さらに企業も共助の立場での連携も含め、防災対策の基本となるのは日頃の訓練です。訓練の必要性はわかっています。障害のある子を連れて行くのは躊躇して参加出来ないのが現実です。

でも、母さんは、気を使わずに出て行こう、寄ってたかってお世話になるうといわれました。迷惑をかけてはいけないと思わず、迷惑をかけてでも、お手伝いをしてもらいながらも出かけよう。出ていかなければ誰も気が付かない。避難所には行けないと思わず、

何処に行けばいいのか聞くこと。聞かなければ誰にも気づいてもらえない。「私の命を守ってくれないの？」と言えるくらい訓練には参加すること、体験することが大切だと教えていただきました。

避難行動要支援者の名簿に載っているだけではどんな人なのか、避難の時どんな支援が必要なのかわかりません。気づいてもらう、わかってもらう為にはまずは訓練に参加することが必要だと母さんに背中を押してもらったような、元気をもらった研修会でした。

奈良市 山崎 木実

たくさんの資料を抱えられ車椅子で会場に入ってこられたのが講師の梅紀久代さんでした。車椅子には乗っておられますがそれを感じさせない自然な動作、てきぱきとした準備の様子です。その行動も目を引きましたが、それよりも気になったのは車椅子の背もたれがフアーになっていたこと。実用的にそれを選ばれているのか秋の気配の装いなのか、お聞きしたいところでした。

自身でのプロフィール紹介から、防災研修「命をまもるみんなが助かる」に話はすすんでいきまし

た。母さんの頭の中には今まで経験してきたことや知り得た知識が一杯に入っていて溢れ出さんばかりの様子でどんどん話しが続きます。とてもパワフルな行動のもので得られた経験であるため、言葉にされると力があつて圧倒されます。私も同じ思いだなと思う項目が幾つかありましたが、思ったその先の行動力が全く違うのでたどり着く結果は言うまでもありません。

資料にあり解説もされた併設避難所の設置とは、一般避難所に福祉避難所を併設した避難所を設置すること。例として学校を利用した併設避難所の全体図を表してありました。具体的にイメージしやすくこの設定なら利用できるかもと希望も出てきます。福祉避難所という看板だけでなく、利用できると思える具体策を提示してもらえると思えます。

母さんがおっしゃる「自分の命は自分で守る」これができるよう、障害者用の非常持ち出し袋を準備しました。親子とも怪我なくいるのが前提なのでこれが崩れた場合を考えると不安になります。母さんの人生のように状況を受け止めてうまく方向転換し命が守れるよう考えていきたいと思えます。ありがとうございました。

社会福祉法人 泰久会

障害者支援施設 仁優園  
サービス管理責任者

山脇 健司

東日本大震災、熊本地震、ゲリラ豪雨による水害など、ここ数年で未曾有の災害を目の当たりにしているながら、時の経過とともに「我が事」として捉えていない私たちがいると思います。自助、共助、公助の三位一体で地域を守るという考えに沿って、災害時の行動を考える良い機会となりました。

入所施設として、地域の方々やニーズに合わせた支援が可能な「福祉避難所」としての役割を求められることが想定できます。施設に入所されている方々だけではなく、地域住民や要支援者のニーズにお応えできるよう、法人内ですっきりと検討し、備えておくことが法人に課せられた使命と捉えなければなりません。

また、私個人としても、地域の自治の一員として、防災に関する意識と私にできる役割を考えていきたいと思えます。



「親亡きあとのために  
今できること」

障がいのある人のライフプラン  
(十月五日・木)

講師 ファイナンシャル・プランナー

終活アドバイザー

鹿野 佐代子氏

本部役員 漸井 みゆき

鹿野氏は三十三年間、福祉施設で障害者と関わってこられ、現在はアドバイザーとして活動されています。

障害のある子どもを持つ私たちは、親亡きあとのために子どもにどのくらいのお金を残しておけばいいのか、兄弟に負担をかけないためにはどうすればいいのかというような漠然とした不安を常に抱いています。

この講演では親が元気なうちに準備できる大切なことをたくさん事例をあげて、わかりやすく教えていただきました。その中で今から始めていききたいことをまとめました。

① 家計の収入と支出のバランスを分析し、キャッシュフロー表を作成する。将来のお金の流れが視覚的に見やすくなり、

早い時期に対策を立てることが  
できる。

② エンディングノートを作る。

自分にもしものことがあった時を想定して終活準備をする。葬儀場を子どもと一緒に下見する。自分で納得できる遺影の準備。スマホやパソコンの暗証番号の記録を残す。出生からの戸籍謄本を取得しておく。遺産分割の親の想いを伝えておくことも大事。

③ 相続対策に生命保険を活用できることも含め、不動産対策、

障害者扶養共済制度、成年後見制度について考える。

④ 子どもの自立を考え、親なきあとの生活を意識しておくこと。

自分で決定できるように経験を積ませ、見守る姿勢で接することが大切。

親に万が一のことがあっても大丈夫なように

・信頼できる誰かとしっかりつながっておく

・親も子も自立して生活できる場所を見つけておく

・体験、トレーニングを積む

・余暇活動を充実させて楽しく笑顔になれる場所を持つ

と具体的な課題を示されました。また、本人と親のお金のけじめは必要で、年金は使うもので

貯めるものではない。本人にお金を残しすぎても使えない場合があります。元気なうちにお金を使い、やりたいことをして、夢を実現させましょう。そして最後に「お金は豊かな生活を送るための道具です。貯めることが目的になると使えなくなる。使うことで豊かな生活を！」と締めくくられました。

この研修で学んだことをきっかけに少しずつでも将来に向けて準備していきたいと思えます。

大和郡山市 小川 一雄

親亡き後子供にいくら残してあげたら安心か。お金の話は、日本人はタブーとしていますが大事な事とファイナンシャル・プランナーの話聞いてつくづく思います。いろいろな例を紹介しての話は、大和郡山市父母の会で一度研修会を開催して下さったのでわかりやすかったです。「子供の入所、グループホームは、障害年金でほぼ補っていきますよ。大金を残してあげても温泉旅行に行くわけでもない」の話は衝撃的でした。親が今を健康で楽しく、暮らすことが大事。親の愛情が大事、成年後見制度については、問題が多いので時

代に合っていないのではと思います。人生には上り坂、下り坂、まさかの時にあわてない為、一日でも早く「らしきノート」を書き始めたらと思いい、すぐに実行しています。

## 本人部会の報告

日帰りバス旅行  
オービイ大阪



(十月二十一日・土)

本部役員 前田 妙子

本人部会の皆さんが中心となり計画したバス旅行で、大阪府吹田市のエキスポシティ内にあるオービイ大阪に行きました。

オービイ大阪は、BBC Earthの驚異の映像とSEGAの技術とアイデアが融合した地球を丸ごと体験できるミュージアムです。施設は、バリアフリー対策が施され、車イスでも段差なく移動できるよう、全館を通じてスロープ・エレベーターを設置、救護室、多目的トイレには成人の

おむつ交換もできるベッドも設置されています。

参加者は、障害者本人一三名(内、常時車いす利用者八名現地のみ車いす利用者二名)、介助者一六名。ほとんどの方がヘルパーさんとの参加でした。

当日は、残念ながら台風接近中で、生憎のどしゃぶりの雨。皆さん雨合羽や傘をさしながらの移動です。バスは、車いす二台を固定できるリフトバスでしたが、雨の中八名の方一人ずつリフトを使つての昇降は時間と手間がかかりました。また、現地のバス用駐車場は、オービイ大阪の建物まで距離があり傘をさしながら車イスを押し移動するのはとても大変でした。

とは言え、施設内はバリアフリーで移動等に困ることはなく皆さん個々に、介助者のヘルパーさんなどと相談しながら好きなところを見て、体験して楽しんでおられたように思います。同じ敷地内にある大型観覧車に乗ったり、ニフレルにも足をのびした方もいて充実した一日だったようです。

本人部会の希望で、昼食はレストランで食べるのではなく、事前に弁当を注文しておきツアールームという部屋を借りて食べるという形態にしました。理

由は、車イスの団体で、レストラン等で注文して食べると時間がかかるということでした。今まで、いろんな所に出かけて経験したことで弁当を注文しておくことが賢明ということになったようです。本人たちの予想通り、どこのレストランも込み合つて長蛇の列でした。

しかし、せっかくの賢明な案でしたがトラブルもありました。車いすの人たちと介助者の団体で、二十九食の弁当を施設内のレストランで注文してツアールームで食べることを予約の時に伝えていたにもかかわらず、部屋には、椅子も机もなく、弁当も運ばれていませんでした。スタッフに聞くと事前に椅子と机が必要と聞いていなかったとのこと。

車イスの人と介助者の団体だと施設側がわかっていながら、具体的に利用者サイドから机や椅子が必要だとお願いしないといけなかったのかと残念な気持ちになりました。

結局、必要だと強く伝えて椅子は自分たちで出し、机を運んでくてもらい不自由なく食べることができました。合理的配慮は、具体的に何をしてほしいか伝えることが大切だとわかってはいますが、かなり細かく具体

的に伝えないと相手には伝わらないのだと痛感しました。最近できた施設内のハード面はバリアフリーが進み利用しやすくなりつつありますが、ソフト面での心遣いや配慮するという気持ちのバリアフリーは、障害者当事者や、私たち父母の会のような障害者団体があきらめず粘り強く伝えていくことでしか進まないのだと改めて感じた一日でした。

今回、ヘルパーさんと母親の私と二人介助で娘も参加させていただきましたが、二人介助だからこそ時間を有効的に使え、積極的にいろんな体験や見学ができました。

娘もヘルパーさんといろいろと話して、楽しそうでした。親に見せる顔とは違う娘の一面を見て、娘なりに自立し、家族以外の人との関わりやつながりを育み成長しているのだと嬉しく感じたバスツアーでもありました。

生駒市 辻田 弘樹



十月二十一日、わかくさもえぎに集合して、台風の前日、雨

の中バスでエキスポランド内にある、オービィ大阪へ行きました。マイナス十五度の体験をしました。少し寒かったけど、いい経験になりました。

食事は、父母の会で用意して頂いたお弁当を皆で食べました。役員をしていて心配していましたが、台風前日にもかかわらず、被害もなく、無事に帰れて、良かったです。

天理市 北田 正

今日の行事に参加するのを楽しみにしていました。台風が接近していたので雨でした。本人部会の行事に参加するのは二回目です。九条からバスに乗り、後ろの方に座りました。バスはほとんど一杯になりました。本人部会の代表の人の挨拶。わかりやすく上手でした。僕の前におられたので「上手だったよ」と言いました。今日行く所までわかりやすいガイドさんの説明に聞きほれている間に目的地に着きました。

万博があった昭和四十五年は小学五年生でした。エキスポランドの跡地に出来たエキスポシティの中に「オービィ大阪」があります。ここは初めてでした。雨の中

歩きました。中に入ると大勢の人でした。雨はふつとびましたが、迷わず見ることができると心配でした。お昼の食事する所と集まる時間、帰りのバスに集まる時間を忘れないようにノートに書きました。昼食の場所は大変でしたが、温かくおいしかったです。

記念写真を僕のカメラにも撮ってもらってうれしかったです。午後はバスに十六時に帰ることを忘れず、自由行動になりました。どこに入ったらいのか使い方のわからない事は、何回聞いてもわかるまで係の人はやさしく教えてくださったのが、うれしく思いました。いろんな所へ入り楽しむことが出来ました。

母は、いつもテレビで見ている大好きな野生の動物の自然のようすを、大きいスクリーンで見ることができて喜んでいました。僕は、マイナス十五度のケニアの夜の気温を二十秒間体験できたのが一番良かったです。「オービィ大阪」から外に出ても、何回でも入れるという事で、乗ってみたいと思っていた大観覧車に小雨でしたが乗りました。一番上では止まっているようで、ゆっくり十七分間でした。記念写真も撮ってもらい、買いました。

最後は、「オービィ大阪」の入

口で腕にはめた物を使って、写真の撮り方を教えてもらい、撮った写真をキーホルダーに作ってもらったのをもらいに行きました。よい今日の記念品になりました。その時には十五時二十分を過ぎていました。買い物はしないで万博公園の記念スタンプをもらい、十五時四十五分にはバスの所に着きました。

家に帰ってから、ゆっくりパンフレットを見ました。今日は地球冒険だったかなあ。ほとんど体験出来てよかったです。母は少し疲れたようでした。

今日の計画を立ててくださった役員の方々、ありがとうございます。又、参加できることを楽しみに仕事頑張ります。



NPO法人わかくさもえぎ

介助者 鈴木 恭一

大阪は万博記念公園内にあります。複合施設「エキスポシティ」、並びに同施設内のミュージアム「Orbi」(オービィ)へ行きました。Orbi(オービィ)は「地球をまるごと体験できるミュージアム」と

して、昨年(二〇一六年一月)オープンした施設です。大画面の映像を中心とした展示内容は、BBC(英国放送協会)の協力を得たもので、非常にクオリティの高いものでした。また、世界各地の気候を体験できる展示は車イスのままでも参加が可能で、参加者にはこれまでになく体験をして頂けたものと思います。

施設はバリアフリー設計となっており、フロア内に段差などはありません。車イス優先トイレやエレベーターも、しっかりと用意されています。しかしエキスポシティ全体は広く、複数の建物に分かれており、建物間を移動する際、やや問題のある点も見られました。また障害者が利用する際の不自由について、施設運営側に知識や経験の不足が感じられる場面もありました。次回の参考として、本人部会内において情報を共有、発信していきたいと考えております。

昼食後は自由行動となり、参加者は広いエキスポシティ内へ各々散って行かれました。ショッピングモールで買い物をしたり、カフェでくつろいだり、別のアトラクション施設に入ったりと、思い思いに楽しい時間を過ごすことが出来ました。エキスポシティは非常に広い



施設であり、一日では回りきれない部分も多くありました。参加者同士で、それぞれが行った場所、見たものについて楽しく話し合われる中で、また改めて訪れたいと、多くの方に感じて頂けたようでした。

さわやかレクリエーション

親子交流事業

心魂プロジェクトさんからの贈り物

奈良ロイヤルホテル



奈良市 暮石 英明

僕は、今年も十二月一日（金）に奈良ロイヤルホテルで行われた奈良県の父母の会のクリスマスの集いに参加しました。

今年の心魂プロジェクトの皆さんのミュージカルは、音楽と映像を取り入れた迫力のある感動的なものでした。

昼食の時に僕の隣に女性劇団員が座られたので楽しくお話しながら食事が出来ました。昼食のコースメニューは、全部とてもおいしかったです。

平群町 植田 小百合

今年のクリスマス会も昨年同様「心魂プロジェクト」の方達が来られました。

歌や踊りなどのパフォーマンスですごく感激しました。私達の良く知っている曲もあって一緒に唄いました。私も含めみんなが笑顔になっていました。今年のクリスマス会も楽しかったです。

斑鳩町 田口 昂大

心魂さんは、ミュージカルみたいで歌がとても上手だと思います。スクリーンの地球みたいな星もきれいでした。太極拳もあって、落ち着くと思いました。お料理がたっさん出て、僕はエビが美味しかったです。

ありがとうございます。

天理市 藤本 文子

今回はじめて参加させていたいただきました。目の前で歌ったりおどったりしてくるすばらしいパフォーマンスに感動しました。とてもきれいなプラネタリウムや海の映像もあり、

イルカやカメが泳いでいる映像には自分も海の中にいるような感じがしました。

ホテルの豪華なお料理は、とてもきれいでいろんな種類があり、どれもおいしくおなががいっぱいになりました。

午後からも歌やダンスがあり、みんなの知っているクリスマスソングやデイズニーの曲、ミスターチルドレンの曲などもあったので、もうあがりませんでした。知らず知らずのうちに笑顔になっていて、ずっと笑っている自分に気づき、横を見るとみんなも笑顔いっぱいになっていました。とても楽しい一日になりました。また来年も参加したいです。

大和高田市 吉良 大輝

僕は肢体不自由児者父母の会連合会の主催する、クリスマス会を楽しみに毎年参加させてもらっています。今回仲の良い友人達が不参加の為、少し不安になっていました。席に着くと回りには事業所さん達のメンバーが来てくれていました。知らない方々の前に出るのはとてもですが、やさしく話し掛けてもらっているうちに楽しく会

話できるようになりました。ふれ合う事もとても大切な事だと思えました。僕の不安な気持はすぐに消えてしまい、とてもリラックスする事ができました。

心魂プロジェクトの方とは三度目の出会いがあり、顔も見覚えがあつて、親しみやすくなりました。今年も企画も色々考えてくれていたようで、歌のすばらしさはもちろんの事、僕達のために精一杯ふれ合ってくれる様子が体全体に伝わって来ました。心魂の方々に見せてもらうばかりでなく、企画の中の一部にでも一緒にゲーム的なふれ合いもしてみたいなあと思いました。来年も是非クリスマス会に参加させて頂きたいと思えます。

NPO法人

サポートセンターはあと

介助者 松井 理恵

心魂プロジェクト、初めて参加させて頂いたかったです。

本日に、心の魂がこもった素晴らしいパフォーマンスでした。

元々劇団四季や宝塚、JACという超一流の芸術家集団におられた方たちですので、そのダンスや

歌は本物の一流のものであり、普段はなかなか見られないようなステキな空間に、自分も一緒に溶け込んでいるような錯覚さえありました。

私は重度の障害をもつ男の子のケアで参加させていただきましたが、その男の子が夢中でミラーボールの光を追いかけ、キレイ、キレイと何度も呟いていて、ああ、この子の心にまた一つ、「美しいもの」が刻まれたのだなと嬉しく思いました。クリスマスソングも、一生懸命歌っていたこと、歌手の方が一緒に歌いに側に来てくれたこと、どの場面をとっても、美しいコマでした。

そして、ホテルの方々の素晴らしいおもてなしに心が温かくなりました。

それぞれに合わせた調理を下さり、見て楽しい、食べて美味しいお料理を提供して下さって、プロの方々の魂を感じました。素晴らしいクリスマス会でした。ありがとうございました。



祝 成人

- 奈良市 有川直輝さん 喜多愛花さん  
喜多愛斗さん 小松聖奈さん  
芳野容慈さん
- 大和郡山市 門之口結衣さん
- 王寺町 岸上明奈さん
- 上牧町 太田有紀さん



知事表彰受賞  
おめでとうございます。

更生援護功労者  
横谷京子さん (奈良市)

自立更生者  
川井哲也さん (奈良市)

ご協力ありがとうございました

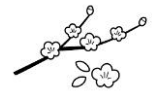
第14回チャリティー墨書展  
奈良県文化会館に於いて  
平成29年7月1日(土)・2日(日)

奈良まほろば館チャリティー書画展  
東京日本橋 奈良まほろば館に於いて  
平成29年12月9日(土)・10日(日)

南都諸大寺のご高僧の皆様にご揮毫いただき、  
皆々様のご協力のもと開催いたしました。

ご寄付を頂きました。

宗教法人円応教 円応青年会様より  
233,446円  
(平成29年7月3日)



アステラス製薬株式会社  
「フライングスター」基金より  
特定非営利活動法人「ひかりの森」へ  
車いす送迎車が寄贈されました。  
(平成29年11月1日)



行事予定 (平成30年)

- \*第49回奈良県肢連総会  
奈良県社会福祉総合センター  
6月7日(木)
- \*第51回全国肢体不自由児者  
父母の会連合会全国大会  
北海道 函館アリーナ  
9月29日(土)・30日(日)
- \*第53回近畿ブロック肢体不自由児者  
福祉大会 (和歌山大会)  
和歌山ビッグ愛  
10月27日(土)

編集後記

この冬は、寒い日々が続き、日本海側では大雪に見舞われ、インフルエンザもA、B同時に大流行。体調を崩された方も多かったのではないのでしょうか。桜咲く暖かい春が待ち遠しい思いです。原稿をお寄せ下さいました皆様、誠にありがとうございました。本年もどうぞよろしくお祈りします。